

IAUD Newsletter vol.6 第 15 号 (2014 年 1 月号) 目次

1. 新春特集：新総裁 瑤子女王殿下からのおことば・・・・・・ 1
2. IAUD 10 年の歩み・・・・・・ 2
3. IAUD アワード 2013 受賞紹介①・・・・・・ 9

あけましておめでとうございます。昨年は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新総裁の瑤子女王殿下にご臨席いただいた「IAUD 設立 10 周年記念イベント」も盛況のうちに終了し、無事に 2014 年を迎えました。IAUD は現在、公益財団法人化への移行手続きを進めています。また、今秋には東京都で国際 UD 会議の開催も予定しております。

新春にあたり、今年最初の Newsletter は、昨年 11 月 21 日に開催した「IAUD 設立 10 周年記念イベント」でご登壇いただいた瑤子女王殿下からのおことばを掲載します。

父の考え方や思い、願っていたことを伝えられるように

新春特集:IAUD 新総裁 瑤子女王殿下からのおことば

本日は、お招きいただきましてありがとうございました。このたび、父がなくなりましたため、今年度より私が国際ユニバーサルデザイン協議会の総裁を受け継ぐこととなりました。

総裁というのは大変荷の重い役ですし、私は父のように人を引きつけるようなお話が出来るわけでもなく、勉強も出来るほうではございませんので、不安な部分などが多々ございますが、父の DNA を持っている娘として、何か少しでも、お役に立てることを自分でも探し、自分らしい姿で、そして何より父の考え方・思い・願っていたことを、改めて皆さまのお心にとめて頂けるよう、そして、今後もより多くの皆さまにその思いを伝えられるように、一所懸命がんばってまいりたいと思っております。



どうぞ、父を今までご存じの方は温かい目で、父をご存じでない方は、出来れば良い意味で、こんな人もいるのだなあと思って頂ければと幸いに存じます。

さて、今年には IAUD 設立 10 周年という記念の年でございます。父が、この記念すべき年に何えなかったことは、天国にいる父自身が 1 番悔しく想っていることと思いますが、きっと不甲斐ない娘が挨拶するお役目を仰せつかっていること、そして総裁という大きなお役目を頂いて困っている娘を心配して、私の横で、冷や汗をかきながら見守っていると思います。

もしかすると、生前父に、お仕事で注意されたことがある方などがいらっしゃったら、「ちゃんと俺の言うとおりに、仕事をしているだろうか」と心配して、又は眉間にシワをよせた顔で、きっとこの場にいることと思います。

私は、IAUD の行事に参加させて頂いて、まだ 2 回目でございます。UD というものについて、まだまだ勉強不足であるにもかかわらず、総裁というお役目を頂いてしまい、なんとも居心地が悪いと申しますか、申し訳ないという気持ちでいっぱいなのですが、参加者の皆さまを始め、ご協力頂いている皆さま、スタッフの皆さま方の少しでもお役にたてるよう頑張ってまいりたいと思

っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

IAUD がより多くの方々に認知され、それぞれの考える力というものが沸いて、よりよいものが出来てくることを心より願っております。

簡単ではございますが、私のご挨拶といたします。(了)

IAUD 設立から 10 年の歩み

2013 年 11 月 28 日に IAUD は設立から 10 年を迎えました。これも、当協議会の設立と発展にご尽力賜りました関係者の皆様、並びに日々の活動にご参加いただきました会員の皆様のご支援とご協力の賜物です。

当協議会はこの 10 年間で取り組んできた事業を今後も責任をもって続けるとともに、これまでの成果と実績を世界に向けてしっかりと発信し、日本発の UD をより一層広めていきたいと思っております。

Newsletter では、設立から 10 年間の IAUD の主な行事や活動を振り返ります。

2002 年

⇒ 11/30～12/4「国際 UD 会議 2002」(横浜市)

20 カ国から延べ約 4,600 名が参加。テーマは「人間のために、一人一人のために暮らしの明日を考える……まち、もの、そして情報」。

会議最終日に国際 UD 宣言「一人一人の人間性を尊重した社会環境づくりを UD と呼び、使い手と作り手の関係を再構築することで社会のすべての面に適用されるべき人間中心の仕組み作りを急ぐことが重要」を採択。この宣言は今も IAUD の活動の原点になっている。



2003 年

⇒ 11/28 国際ユニヴァーサルデザイン協議会設立

「国際 UD 会議 2002」の理念と成果を継承して設立。総裁に寛仁親王殿下、会長には富士通名誉会長の山本卓眞氏をお迎えし、国内最大の UD 推進団体としてスタート。公式 Web サイトオープン。



設立に向けての記者会見で「何故ユニバーサルではなくユニヴァーサルの表記なのか」との記者からの質問に、寛仁親王殿下自らマイクを取られ、「私が強く要望したもの。UD で言語の壁を越えたものを作ろうというのに、“ユニバーサル”と発音していたのでは外国人に通じない。少しでもネイティブの読みに近い表記として“ユニヴァーサル”を採用した」とご説明された。

⇒ 12/26 「IAUD 発足記念公開セミナー」(東京・銀座)

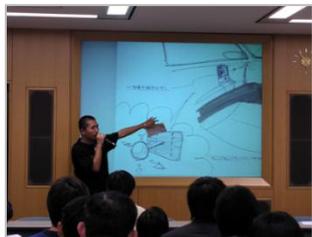
IAUD 初めての公開セミナー。講演「IAUD への期待と世界の潮流」(ロジャー・コールマン氏)とパネルディスカッション「事業に活かす UD の課題」を実施。生活者との対話を重視した協議会運営の重要性を確認した。



2004年

→ 6/1「バリアフリー化推進要綱」公表（バリアフリーに関する関係閣僚会議・内閣府）

⇒ 10/25「UDワークショップ」（横浜・あざみ野）



IAUD 初めてのユーザー参加型ワークショップを開催。体の不自由なユーザーや会員企業のデザイナー、プランナーなど 29 名が参加した。

デザイナーがユーザー現場の問題点を体感し、新しいデザインの可能性を探ることに一定の成果が得られた。また、デザイン開発現場において、ユーザー参加の UD 開発の必要性を再認識した。

⇒ 12/8～12「Designing For The 21st Century III」IAUD セッション開催
(Adaptive Environments 主催、リオデジャネイロ)

日本企業の UD への取り組みと商品を紹介。世界の UD が学術研究の場や社会福祉のレベルにとどまる中、日本の UD は各企業が具体的な取り組みを持って製品に UD の発想を取り入れていること、また、本来はライバルである企業同士が一つの大きな目標に向かって知恵を出し合いスタンダードモデルを作ろうという姿勢が注目された。



⇒ 12/10 Adaptive Environments より Ron Mace Designing for 21st Century Award (ロン・メイス賞) 受賞

2005年

⇒ 3/1 IAUD 会報創刊（以後、2007年12月の5号まで発行）

⇒ 3/3「2004年度活動・成果報告会」開催（東京・三田）

発足から1年が経過し、これまでの活動内容を会員ならびに一般の方に向けて情報発信。会員限定の「活動報告会」、一般公開の「成果報告会」、「懇親会」、「IAUD・各委員会の展示」の4構成で実施。

以後、年度末に継続開催している。



⇒ 3/28「IAUD 特別公開セミナー」（東京・汐留）

講演「UD・世界の潮流と課題」（ムーアデザイン・アソーシエーツ社長 パトリシア・ムーア氏）を開催。

⇒ 4/5～8「INCLUDE 2005 国際会議」IAUD セッション開催（英国王立芸術大学院主催、ロンドン）



日本企業の UD の実践事例について発表。また、欧州（特に英国）で使われている「Inclusive Design」についての意味合いをつかみ、欧州における UD の動向を探った。

さらに、ブラジル・リオでの国際会議に引続き、UD 国際会議の運営等を学ぶことができた。

➔ 7/11 「ユニバーサルデザイン政策大綱」公表（国土交通省）

⇒ 9/22～28 「ERA05 世界デザイン会議」参加（ノルウェー・オスロ）

オスロ・プレコンファレンスで IAUD として講演。また、会場の一角に IAUD の展示コーナーを設け日本の UD 商品を紹介した。

⇒ 10/1 IAUD サロン開設（東京・八丁堀）

会員の打ち合わせや情報交換など IAUD 活動の拠点として設置。

⇒ 10/3～4 「UD ワークショップ 2005」（新横浜）

ユーザー参加型のワークショップの会期を2日間に延長。「デザイナーはユーザーとユーザーのフィールドの間にある問題を体験した上で新しいデザインの可能性を探ること」の重要性を認識。



⇒ 10/21 「IAUD 公開フォーラム 2005」（京都市）



「伝統文化と暮らしの UD」をテーマに、国際会議への参加を促すことを目的として開催。講演「世界の UD 動向と 06 年国際会議への期待」（キャンベラ大学名誉教授 ビル・グリーン氏）やパネルディスカッションが行われた。

2006 年

⇒ 2/6 「第 2 回国際 UD 会議プレイヴェント」（川崎市）



講演「アクセシブル・デザイン規格の整備状況と国際展開」（経済産業省横田真氏）、「UD は今後どこへ向かって行くべきか？」（Adaptive Environments 所長 ヴァレリー・フレッチャー氏）を実施。

⇒ 2/14～15 「UD カンファレンス 2006」基調講演

（International Forum Design 主催、ドイツ/ハノーバー）

ドイツで最初に開かれた UD 会議で IAUD の成果や日本の先進的 UD を紹介し、ヨーロッパで日本の UD 情報を発信した。

また、UD 展視察などによりドイツでの UD の現状を調査した。



⇒ 2/6 「第 2 回国際 UD 会議プレイヴェント」（川崎市）

⇒ 10/22～26 「第 2 回国際 UD 会議 2006 in 京都」

29 カ国から延べ約 14,700 名が参加。テーマは「さりげなく、大胆にー使い手と作り手の対話、実践そして実現ー」。

UD 宣言「世界に今なお存在するさまざまな差別、貧困、戦争、環境汚染、利己主義、無関心。UD はこれらに対し敢然と立ち向かい、



みんなが平和に、快適に暮らせる社会を目指すために、話し合いを続ける」を採択。

⇒ 10/23～25 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン」(京都市)



IAUD とヘレンハムリン研究所の共同開催。英国人リーダー5名を招聘してグローバル化と学生ボランティアによるサポートと産学共同体制を構築し、ユーザー参加型デザインプロセスを確立。

今回でフィールドサーベイから企画、開発、提案に至る「48時間デザインマラソン」の骨格を創成した。その後、毎年開催しており、これまで約370名の経験者が育っている。

→ 12/13 「障害者の権利に関する条約」採択 (国連)

→ 12/20 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)」施行 (国土交通省)

2007年

⇒ 10/23～25 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン」(千葉市)

⇒ 12/21～23 「第2回サステナブルデザイン国際会議 Destination2007-2025」共催

(サステナブルデザイン国際会議実行委員会主催、岐阜県白川村)
サステナブルな社会におけるデザインの役割やふさわしい生活価値観の創出と提案を学んだ。

また、「エコイノベーションで実現するサステナブルなライフスタイル 2025」編纂に協力。



2008年

→ 3/28 「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」策定 (バリアフリーに関する関係閣僚会議・内閣府)

⇒ 4/1 情報交流センター設置、IAUD Newsletter 第1号創刊

⇒ 9/22～23 「UDフォーラム in 札幌」



「北の暮らしとUD」をテーマに、講演「スウェーデンのUD紹介」(エルゴノミデザインジャパン代表 ダーグ クリングスレット氏) やパネルディスカッション、ワークショップ「余暇のUDサーヴィスシナリオの提案」を実施。地域の人々とUDの意義や重要性を共有した。

2009年

⇒ 2/25～28 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン」(名古屋市)

⇒ 2/27～28 「IAUD UD 大会 in 東海」(名古屋市)

東海地区の人々の暮らしや産業、学術研究などに焦点を当て、UD を通しての研究発表や事例紹介、展示等を実施。

また、講演会やパネルディスカッションなどの交流の場を通じて、将来の暮らしや社会のあり方を共に考えた。



⇒ 12/4～5 国際 UD 会議プレイベント「しずおかユニバーサルデザインの絆 in 浜松」



UD に対する県民・市民の関心と理解を深め、情報発信を目的に開催。記念講演「誰もが暮らしやすい高齢社会への提言」(樋口恵子氏) や「次の世代に今できること」をテーマにしたパネルトークなど実施した。

⇒ 12/4～5 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン」(浜松市)

2010年

⇒ 2/10 「IAUD UD マトリックス ユーザー情報集・事例集」 発刊

⇒ 10/29 「UD 先進事例～多様性への挑戦、IAUD 会員の取り組み」 電子書籍で発刊

⇒ 10/30～11/3 「第3回国際 UD 会議 2010 in はままつ」

38カ国から延べ約14,110名が参加。テーマは「人と地球の未来のために～持続可能な共生社会の実現に向けて」。

UD 宣言「人、文化、習慣の多様。一方で私たちは普遍的でもある。人は等しく笑い、泣き、悲しむ。UD のゴールは差別をなくし、人びとの違いを尊重し、世界をつなぎあうこと」を採択。

また、地雷除去機や発展途上国の人々を救うためのデザインを展示した特別企画展「世界を救うデザイン」を実施した。



⇒ 10/31 ドイツユニバーサルデザイン協会より universal design honor award 2010 (UD 栄誉賞) 受賞

⇒ 10/31～11/3 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン」(浜松市)

⇒ 11/1 「IAUD アワード 2010」

UD 社会の実現に向けて特に顕著な活動や貢献をした団体・個人を表彰する IAUD アワード事業を開始。

5カ国 23件の応募の中から4件を優秀賞に決定。この中から大



賞を選出し、表彰式および受賞者によるプレゼンテーションを国際会議中に行った。

2011年

⇒ 7/8 余暇の UDPJ 冊子「テレビコマーシャルにも字幕を」による啓発活動
「第5回キッズデザイン賞」キッズ・コンシューマーサポート部門受賞
子どもの会話の現状をリサーチし CM と字幕という社会課題に光を当てた独自性と、親子で UD の意味を考える契機になると評価。

⇒ 9/29～10/2 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン in かなざわ」

⇒ 12/9 「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」受賞



バリアフリーと UD の推進について極めて顕著な功績または功労のあった個人や団体を表彰する「平成 23 年度 BF・UD 推進功労者表彰式（第 10 回）」で「内閣府特命担当大臣表彰 奨励賞」を受賞。研究や活動の成果を披露する場として「国際 UD 会議」を開催するなど、幅広い層への普及活動に貢献したと評価された。

2012年

⇒ 3/22 「第4回国際 UD 会議プレイヴェント」（東京・江東区）
野村総合研究所顧問の増田寛也氏、防衛省の竹本竜司氏、建築家の伊東豊雄氏をお招きし、東日本大震災の復興現場での活動についての講演を行った。



⇒ 10/10～10/13 「48時間デザインマラソン」（福岡市）

⇒ 10/12～14 「第4回国際 UD 会議 2012 in 福岡」

22 カ国から延べ約 11,400 名が参加。テーマは「安全・安心～UD の基本を考える」。

UD 宣言「技術をどうデザインして使いこなすかは、私たち「人」にかかっている。寛仁親王殿下のご遺訓にあるように、それは私たちが一生をかけるに値する命題である。安全・安心な社会のために、私たちの小さな力と UD の考え方が大きく貢献できる」を採択。



また、防衛省協力により特別企画展「命を救うデザイン」を開催した。

⇒ 10/14 「IAUD アワード 2012」

3 か国 34 件の応募の中から「特別賞/寛仁親王賞」「大賞/経済産業大臣賞」、各部門の「金賞」「銀賞」11 点が選定され、プレゼンテーションと表彰式が国際会議中に行われた。



⇒ 10/14「第1回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」(福岡市)



UD の更なる普及と実現をめざす一環として UD 検定事業がスタート。国際会議中に第1回目を実施した。

初級検定試験は UD に関する基礎的知識を学習する講習会と、理解度をテストする検定試験の二部構成にし、UD に興味のある一般生活者の方も気軽に参加できるようにした。

2013年

⇒ 1/9「第1回定例セミナー」(東京・大森)



主に各省庁や自治体関係者を講師に、UD に関する政策や課題などについてお話いただく定例セミナーを開始。

第1回目は講演「人にやさしいまちづくり」(内閣府大臣官房審議官 渋谷和久氏)、「クールジャパン産業を海外へ」(経済産業省 外山雅暁氏)を行い、会場は満席となり、国や自治体の動きや協働についての関心の高さが伺えた。

⇒ 3/26「第2回定例セミナー」(東京・浜松町)

講演「通貨制度(幣制)とUD」(内閣官房行政改革推進本部 渡部晶氏)

⇒ 3/26「第2回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」(東京・浜松町)

⇒ 5/20「第3回定例セミナー CM 字幕勉強会」(東京・豊洲)

余暇の UDPJ で研究してきた CM 字幕に関し、CM 字幕本放送開始に向け、CM 字幕トライアルに携わっている方々6名を招いて勉強会を実施。



⇒ 6/6 一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会設立

寛仁親王殿下のご命日に一般財団法人設立登記手続きを行い、「一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会」として同年6月14日に公示された。

⇒ 7/2~3「INCLUDE ASIA 2013」ワークショップ開催

(香港デザインセンター主催、香港)

IAUD 主体による海外で初めてのワークショップ「Inclusive Design in Japan」を開催。4時間の限られた中で、日常の体験やニーズを率直に出し合い、地元香港デザインセンターの強力なサポートもあり、言葉の障害を乗り越えてユニークな提案に結びつけた。



⇒ 8/26~30「第5回国際デザイン学会連合国際会議 (IASDR 2013)」展示会参加

(日本デザイン学会・日本感性工学会・日本学術会議主催、豊洲)

IAUD と会員企業7社が出展。皇太子殿下が IAUD ブースをご巡覧され、IAUD の活動に関心を寄せられたご様子で、UD 製品を手にとって実際にお試しになられた。



⇒ 8/29 瑠子女王殿下が IAUD 新総裁にご就任

⇒ 9/16 「第3回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」(神戸市)

⇒ 9/17~19 特別ワークショップ「48時間デザインマラソン in こうべ」(神戸市)

⇒ 11/21 「IAUD 設立 10 周年記念イベント」(横浜市)

新総裁に就任した瑠子女王殿下にご臨席いただき、おことばを頂戴した。また、講演「新たな成長戦略と UD」(岩手大学地域連携促進センター客員教授 渡邊 政嘉氏)、「UD 社会の実現に向けて」(国土交通省都市局 佐竹 洋一氏) や、パネルディスカッション「これまでの 10 年、これからの 10 年 ~クールジャパンと海外戦略における UD~」が行われた。



⇒ 11/21 「第4回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」(横浜市)

⇒ 11/21 「IAUD アワード 2013」

5 か国 38 件の応募の中から「大賞」、各部門の「金賞」6 件「銀賞」7 件、「IAUD アワード」14 件を選定。プレゼンテーションと表彰式を記念イベント内で行った。



IAUD アワード 2013 受賞紹介①:

大賞「Honda 新型軽乗用車 NBOX+車いす仕様」 本田技研工業(株)／(株)本田技術研究所

IAUD アワード 2013 は、5 か国 38 件の応募の中から IAUD アワード 2013 審査委員会による厳正且つ公正な審査の結果、「大賞」、各部門の「金賞」6 件、「銀賞」7 件のほか、UD において一定の基準を満たしたものに対して「IAUD アワード」14 件を選定しました。そして、昨年 11 月 21 日に開催された「IAUD 設立 10 周年記念イベント」では、表彰式と受賞者によるプレゼンテーションが行なわれました。

Newsletter は今号から「IAUD アワード 2013」大賞と金賞 6 件の取り組みを順次、紹介していきます。

第 1 回目は大賞を受賞した「Honda 新型軽乗用車 N BOX+車いす仕様」(本田技研工業(株)／(株)本田技術研究所) です。審査委員長のロジャー・コールマン氏(英国王立芸術大学院名誉教授)は、「同社のデザインチームは開発過程で重度障害のユーザーのライフスタイルを直視し、さらに最大限幅広い消費者のプロファイルを取り込むことで、現代のあらゆる世代のファミリーニーズに対応する車のプラットフォームを実現した。同社の進化した UD アプリケーションを賞賛する」と高く評価しました。

この車いす仕様車を含む N BOX シリーズの概要を、開発経緯を交えて紹介していただきます。

根本からクルマを見直す

N BOX シリーズを生み出す背景には、弊社の創設者 本田宗一郎の言葉の一つである次の様な一節があります。「技術は人に奉仕する為に有る。人を幸せに出来るなら、Honda のもっている技術は惜しみなく使え。」

この言葉に触れると「困っている人がいたらお前たちの技術で何とかしろ！」という、宗一郎さんの声が聞こえてくるようで、開発チームの軽自動車 N BOX に対する想いも「根本からクルマを見直したい」と言うところから始まりました。



軽自動車を、そしてクルマをもう一度やり直したい

日本の人や街や生活をとことん見つめて、誰もが使いやすいものを作りたい

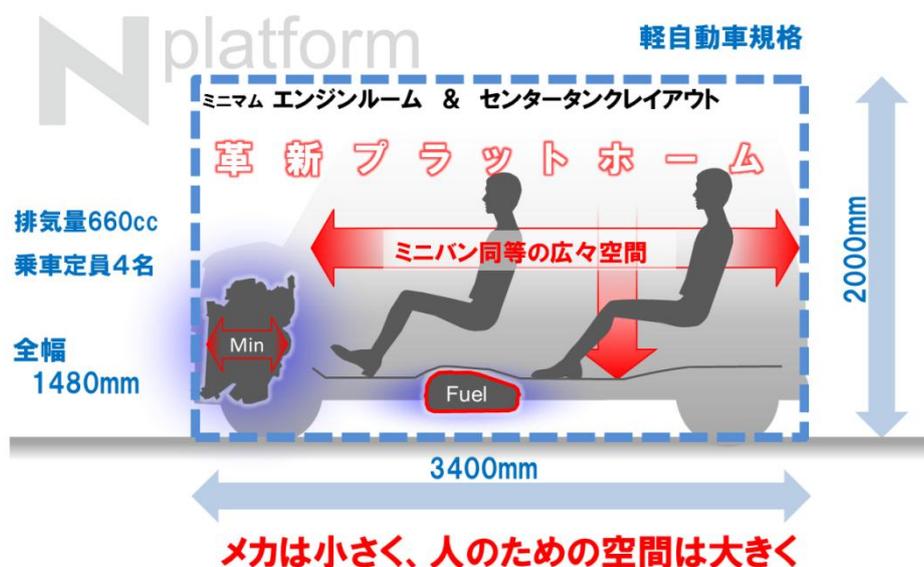
それが生活を変え、乗る人の生き方も変えていく

人のための空間は最大限に

N BOX+車いす仕様車は、N BOX というベースのクルマに、装備を充実させた N BOX+(プラス)というタイプがあり、その中の専用仕様車という位置づけになります。

ベース車輻の特徴である燃料タンクの位置が前にあることが、車いす搭載のみならず、様々な使い勝手において UD のコアな技術となっており、これは Honda デザインの MM 思想「Man-Maximum・Mecha-Minimum」つまり「エンジンなどのメカニズムは最小限に、人のための空間は最大限に」と言う考えが基本になっています。

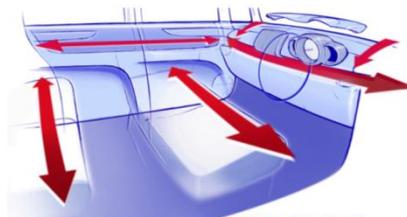
あたらしい日本ののりもの。



これら新開発したプラットフォームとレイアウトにより、今までに無い普通車にも匹敵する室内ユーティリティを持つ N BOX ができました。



強さと安心感



広さと充実感



需要が高い福祉車両

この N BOX の一部を変更し N BOX+ ができた訳ですが、その開発は N BOX の車いす搭載車を開発するという事から始まりました。しかしその当時、世の中にある福祉車両はどれも高価な特殊車両であるという実態でした。

N BOX+の開発は、福祉車両(車いす搭載車)の開発からスタートしたが...

■車いす廻りのスペース



リアシートは車いす専用の幅の狭いシート



リアシートをチルトアップするので、車いすスペースは窮屈



リアシートを着脱できるものもあるけど普段使いは無理

シート付けたり、はずしたりするの!?

■荷室の使い勝手



T/Gを開くと、車いす乗降用のスロープがあり荷物の出し入れが不可能

■売価設定

ベース車両
に対し
47.7万円高
(同一装備)



従来からある福祉車両は高価な特殊車両

そのような状況にもかかわらず、福祉車両のニーズは年々高まります。

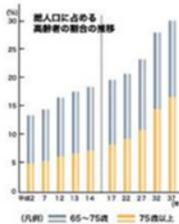
2014年には国民の
4人に1人が65歳以上

2014年には4人に1人が65歳以上の高齢社会に
高齢化、少子化によって、総人口に対する65歳以上の割合が高まり、2014年には国民の4人に1人(9千万人以上)が65歳以上になると予想されています。この割合は、世界的に見てもイタリアを抜いて世界のトップレベルのもの。

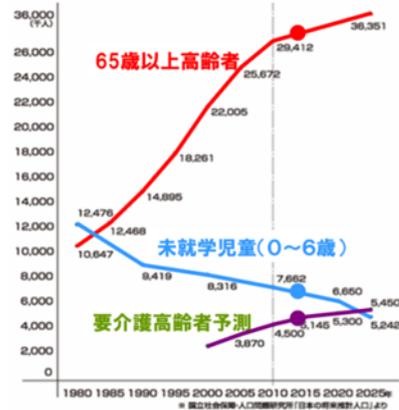
また厚生労働省の調査では高齢者のおよそ7割が在宅食事を希望しています。しかし配食供給する事業者はまだ少なく、2005年には供給が1億9千万食が不足していました。

したがって在宅配食事業の市場はますます増大すると予測されているのです。

資料:経産省統計局、平成10年までは「国勢調査」、平成10年および平成14年は「推計人口」、平成17年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」



65歳以上の
6人に1人は要介護者
(10年で2.2倍に)



社会の高齢化に伴い、介護需要が増加

普段使いもできる福祉兼用車を

そこで我々は実際に介護を経験した人に意見を聞きました。その意見を集約すると、普段使いもできる福祉兼用車を作ると言う事でした。兼用車として最優先で投入した技術は普段は普通に荷物を積める床下収納アルミスロープと、必要な時に福祉車両に変更できる後付け可能構造です。

高齢者・介護者Grインタビュー



2010年9月9、10日
横浜：18名
仙台：15名
40代～60代の
介護経験のある
一般女性

- Aさん：介護は突然やってくる。
Bさん：普段使いも出来る事が大事。親も大切にけどやっぱり子供との生活が優先。
Cさん：親の介護は一時的なので、介助用品等になるべくお金をかけたくない。
Dさん：介護には非常にお金がかかる。生活の負担、精神的負担が大きい。
皆さん：今の老後暮らしは出来る事なら足腰が弱っていても外に出たいと思っています。

■ 連れて行く場所は、近場の買物、病院、墓参り、公園、近場のドライブ

介護は突発的、普段使いとの両立がMUST

①床下にスロープを収納

介護と普段使いの両立



従来車いす仕様車

N BOX+
スロープ未使用時
マルチボード
下段に収納



②販売店での取り付け／後付可

車いす積載が必要になった時....

従来・・・買い替え/増車が必要

NBOX+・・・スロープ後付けで対応可

生活環境変化に
費用ミニマムで対応

福祉専用車ではなく、福祉兼用車であることが重要！

この2つの項目以外にも老々介護に必須な電動ウインチも装備しましたし、お客様の嗜好やニーズに合わせ、ベース車両にあるカスタムデザインや4WD仕様等も選択して頂けるよう用意しました。

しかし、実際に福祉車両の購入を検討するお客さんは現在まだ少数です。より多くのお客さんにもこの車を購入して頂きたいと考え、福祉目的以外の価値を加えて、生み出したのがN BOX+という車です。

■ 床下収納スロープにより普段使いとの両立
■ 後付け可能で生活環境変化にも対応



<p>BODYインライン生産で 従来の改造車より 大幅コストダウン</p>  <p style="text-align: center;">家計に優しい御手軽価格</p>	<p>センタータンク & Hビームで 軽乗用初の4WD</p>  <p style="text-align: center;">4WDユーザーにも提供</p>
<p>電動ウインチで 老々介護時代 介護負担軽減</p>  <p style="text-align: center;">高齢者でも女性でも楽々介助</p>	<p>カスタム、ツートン 豊富なバリエーション</p>  <p style="text-align: center;">好みに合わせて選べるスタイル</p>

車いす仕様車の垣根を取り払い、特別な車から普通の車へ

介護する人も幸せになれる車に

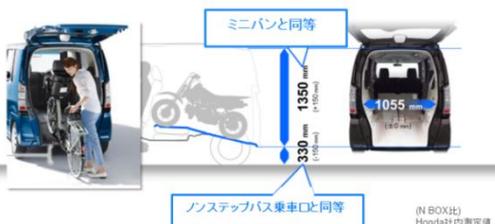
いろいろなお客様に選んでいただく為に考えたのが、「らくらくのせられる」「いろいろつめる」「のびのびとまれる」というアウトドアで遊ぶ時に便利な3つの価値です。このような価値を加えたことにより、介護される人だけではなく、介護する人も幸せになれる車が出来たと思います。我々はUDとはこう言うものだと考えます。

Concept

N+ BOX **One's ACTIVE MINI**

らくらくのせられる いろいろつめる のびのびとまれる

N+ BOX **らくらくのせられる** 室内アレンジ:「スローモード」
積み下ろししやすい「スローフロア」・荷室開口・地上高



(N BOX社)
Honda社内測定値

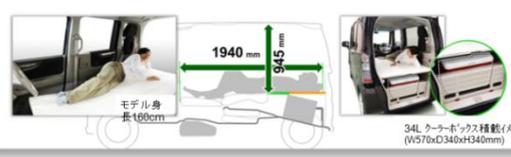
N+ BOX **いろいろつめる** 荷室/タンDEMテスト
4名ゆったり座って、たっぷり積める



Honda社内測定値

N+ BOX **のびのびとまれる** 室内アレンジ:「ベッドモード」
足を伸ばして寝られる 快適スペース

➕ 身長190cmの人でも寝ころべる ➕ 荷物は下段に収納可能



34L クレーンボックス搭載(オプション)
(W570xD340xH1340mm)
Honda社内測定値

もちろん、車いす仕様車両の装備も充実していますし、車いす搭載の手順にも配慮した設計となっており、福祉車両としての基本機能も満足した車両となっております。

N BOX+ 車いす仕様車



乗り入れ操作も簡単で、介護する人もラクラク



「IAUD アワード 2013」で弊社 N BOX+車いす仕様車が栄えある大賞を頂き、大変名誉な事と感謝いたしております。今後とも Honda は UD を考えたクルマ創りをしてゆきます。ありがとうございました。(了)

※IAUD アワード 2013 の各賞のご紹介は以下のサイトをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1311/29-120000.php>

次号は 1 月下旬発行予定

特集：標準化研究 WG 震災地調査報告／IAUD アワード 2013 受賞紹介②

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net